

Q2 : T・Tや少人数指導、習熟度別指導等を充実させるためには、どのようなことに留意するとよいですか。

個に応じた指導の充実



平成25年度はT・Tや少人数指導などの指導方法について紹介しました。今回はそれらの指導を充実させるための留意点を掲載します。

指導に当たっては、児童生徒の発達段階や学習の実態などに配慮しながら、従来から取り組まれてきた一斉指導に加え、個別指導やグループ別指導、理解の状況に応じた繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導、児童生徒の興味・関心や理解の状況に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れた指導、教師間の協力的な指導などを柔軟かつ多様に導入することが重要です。（「小中学校学習指導要領解説総則編」より抜粋）

指導を充実させるためのポイント

教師の数や学習集団の人数という量的な側面だけでなく、児童生徒一人一人が主体的に学び、その学習のねらいを達成するためにはどのようにしたらよいかといった質的な側面を重視することが大切です。

(1) 指導方法のメリットを生かして

学習のねらいとそれぞれの指導方法のメリットを勘案して、個に応じた指導を充実させましょう。

T・Tでは複数の教師が協力して指導に当たれるよさがあります。少人数学習では、一人一人の児童生徒が意見交換をしたり支援を受けたりする機会が増えるなどのよさがあります。単に形式的に指導方法を取り入れるのではなく、学習のねらいを明らかにした上で、どのような手立てを行うことが効果的か工夫することが重要です。

(2) 年間指導計画への位置付け

学習のねらいに合わせて、実施する教科や単元、指導方法等を年間指導計画に位置付けて計画的に行いましょう。

単元の前半をT・Tで行い後半を少人数指導で行うといった展開や、習熟を図る際にT・Tの形態に戻して協力して支援を行うといった展開など、それぞれの指導方法を併用して行うことも考えられます。実施に当たっては各教科の年間指導計画に位置付けて、計画的に行うことが求められます。

(3) 教師間の役割の明確化と連携



新しい単元に入る前には指導計画を確認し、教師間の役割分担を明確にしましょう。また、打合せや情報交換を工夫して行いましょう。

指導計画に基づき、教師の役割分担を明確にした上で、単元の目標や内容、単位時間ごとの学習の進め方や指導のポイント、教材・教具、評価規準や評価方法、家庭学習の内容等について、十分に確認しておくことが必要です。

(4) 授業展開の工夫

それぞれの指導方法に応じて、どのような授業展開が適切か十分に検討しましょう。

習熟度別学習を行う場合、特に基本コースでは児童生徒への一対一の個別対応ばかりを充実させればよいというわけではなく、一斉指導においてコースに合わせた教材や発問、学び合いのさせ方を工夫し、互いに考えを深める指導をすることも大切です。

T・Tについては、T1とT2が課題の違う2つのグループをそれぞれ指導し、最後に意見を交流し合って多面的に理解するといった展開など、T・Tのメリットを生かした授業展開を工夫することが重要です。

(5) 評価規準や評価方法の確認



単元や単位時間ごとのねらいや評価規準を明確にし、どの場面でどのような方法で評価をするのか共通理解を図りましょう。

習熟度別学習を行う場合、どのコースも学習指導要領における学習のねらいは同じです。つまり、評価規準はどのコースも同じであって、その状況に応じた指導や支援の仕方を工夫することで、個に応じた指導を実現することが求められます。

評価に当たっては、評価規準、評価の場面、評価方法等の共通理解を図り、教師によって評価に「ずれ」が起こらないようにすることが大切です。また、評価の記録簿等を作成し、授業後の情報交換や評価の見直しに役立てましょう。